

文 献

- 1) 木本誠二：塩田外科に於ける約12年間の鼠径ヘルニア患者1,592人に就いての統計的観察，日外会誌，**36**(1)：1036-1081，1935.
- 2) 木本誠二：鼠径ヘルニア治療の諸問題，治療，**30**：64-69，1948.
- 3) 木本誠二：鼠径ヘルニア手術術式の検討(第441回東京外科集談会，昭22年)，外科，**10**：70-81，1948.
- 4) 沢口重徳・他：鼠径ヘルニアの治療，外科診療，**8**：290-294，1966.
- 5) 石田正統・他：新生児鼠径ヘルニアの診断と治療，臨床外科，**21**：1531-1536，1966.
- 6) 本名敏郎・他：乳幼児，小児における外鼠径ヘルニアの手術術式の検討，外科治療，**30**：160-164，1974.
- 7) 石田正統：乳幼児外鼠径ヘルニアの手術を中心として，日本臨床外科医学会雑誌，**35**(2)：142-144，1974.
- 8) 本名敏郎・石田正統：乳幼児外鼠径ヘルニアに対する各種手術術式の検討，手術，**28**：1075-1080，1974.
- 9) 本名敏郎・土田嘉昭：鼠径ヘルニアの胎生と病理，Hurler Hunter 症候群と外鼠径ヘルニア，小児外科・内科，**6**(6)：13-18，1969.
- 10) Ferguson, A.: Oblique inguinal hernia; typical operation for its radical cure, J.A.M.A., **33**：6，1899.
- 11) Koop, C. E.: Inguinal herniorrhaphy in infants and children, The Surgical Clinics of North America, **37**：1675-1682，1957.
- 12) Kiesewetter, W. B.: Early surgical correction in inguinal hernia in infancy and childhood, A. M. A. Jr., Dis. Child, **96**：362-367，1958.
- 13) Coldony, A. H., et al.: Rectal examination, Ped. Surg., **53**：544-546，1963.
- 14) Lichtenstein, I. L.: Exploding the myths of hernia repair, American J. Surgery, **132**：307-315，1976.

● ニュース

□ 英国医療機器展開かる

EMI・ディスプレイザブル製品に関心

英国医療機器輸出協会の主催による英国医療機器展がさきごろ，東京・北の丸公園の科学技術館で開かれた。

今回は定評ある英国医療機器メーカー41社が出品，評判を呼ぶコンピューター制御のX線システム EMI スキャナー (whole body) の展示のほか，英国医療のきめ細かな福祉の側面を伝える身障者用各種機器 (各種杖および歩行器) あるいは新規の麻酔器，滅菌装置が展示された。

また，自動生化学分析装置も相変わらず盛んで，各種のものが展示されたほか，外科関係のものでは，これも近年著しく活用度を深めているディスプレイザブル製品，特殊外科用包帯やプラスチック用具が関心を呼んだ。



of antithrombotic activity of the anticoagulant fraction of incubated fibrinogen, Brit. J. Haemat., 22: 719, 1972.

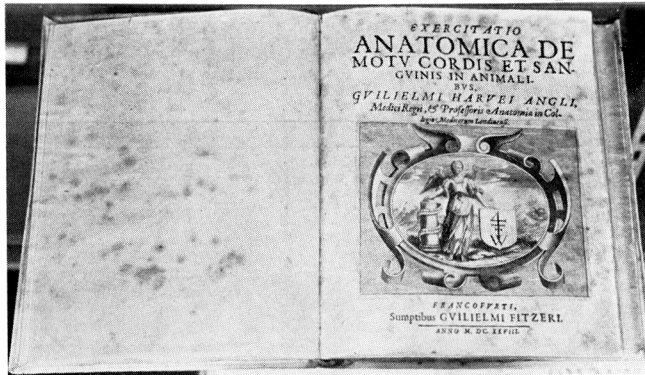
18) Umbach, W., et al.: Veränderungen der Th-

rombozytenzahl unter dem Einfluß hirnergergischer Eingriffe, Klin. Wschr., 37: 1069, 1959.

□トピックス

目でみる科学史

“ゲッティンゲン文庫” 公開さる



↑Hippocrates の“頭部損傷”
(1578 年バリー Lutetia 版)
など 70 余点の古書、奇書に
連日、多数の好事家がつめか
けた。

←Harvey は James I 世, Charles I 世の侍医を務めたため
クロムウェル革命で家も書庫
も焼かれてしまった。展示さ
れた初版本は稀覯本である。

医師のみならず科学史に関心をもつ人にとっては垂涎的の「血液循環論」の初版本(ウィリアム・ハーベイ著, 1628 年版)など 70 余点の古医書が、さきごろ公開展示された。この催しは、川崎市の労働科学研究所が所蔵する「ゲッティンゲン文庫」のうち、とくに重要な書物を同研究所の 55 周年を記念し、またその目録刊行を記念して行なわれたもので、6 日間に亘る会期中、中世から近代科学の橋わたしをしたいわば目でみる科学史。その推移を伝えるこれらの書物に参観者がひきもきらず続いた。なかでも圧巻は、上記「血液循環論」であつたが、外科関係書でも化学医学の源流をなすといわれている Paracelsus の“Opus Chirurgicum”(1581 年パーゼル版)、いわゆる床屋外科の Peré, “Opera Chirurgica”(1594 年フランクフルト版)などなどが出品され関心を集めていた。